

クラス番号	917	ゼミタイプ	地域研究型
		担当教員名	斉藤 雅茂
テーマ	認知症の人と家族に関する地域社会への啓蒙・啓発		

ゼミナール概要

目的、内容、方法等：

<学習目標>

- ・認知症への理解を深めるとともに、認知症の人と家族がどのような課題を抱えているのかを説明できる。
- ・様々な主体と連携しながら、自らの力で認知症の啓発にむけた企画を提案・実施できる。
- ・自らが取り組んできた活動成果を地域社会に発信することができる。

<内容の要約>

この演習では、地域研究型として、学生自らが企画したプロジェクトを実施・運営する中で、社会人として求められる「主体性」「課題の発見力」「成果の発信力」を形成することを目標にしています。具体的には、認知症の人と家族に関する啓蒙・啓発を大きなテーマにして家族支援、地域支援、企業の社会貢献などを考える場にしたいと思っています。座学を通じた知識のインプットよりも、社会に還元できるような知識や成果のアウトプットを重視しています。たとえば、これまでは認知症啓発にむけたクイズ・アプリやシミュレーションゲーム、紙芝居やカルタなどを開発してきました。具体的にどのようなプログラム（例えば、認知症サポーターの養成研修、子どもへの認知症理解にむけた紙芝居など）を実施・運営するのは定まっていません。この前期の半分を使って知症に関する基礎的な学習と関係機関へのヒアリングを実施しながら準備と企画構想をし、その後、計画したプログラム・企画を実施していきます。

授業計画（予定）：

（前期）

1. オリエンテーション；課題共有と役割分担
- 2～4. 認知症に関わる諸問題や取り組みを調べる
- 5～7. 取り組むべき課題を構想する
- 8～10. 実現可能な課題を整理する
11. 中間報告会
- 11～13. 各班で設定した課題に取り組む
14. 中間報告会
15. 前期の振り返り

（後期）

- 1～5. 成果物のとりまとめと成果発信①
6. 中間報告会
- 7～10. 成果物のとりまとめと成果発信②
11. 中間報告会
- 12～13. 各取り組みの達成度と反省
14. ルーブリック評価法を用いた自己評価
15. 一年間の振り返り

先輩達の活動成果はコチラから→



担当教員からのメッセージ



本ゼミでは、いわゆる座学だけでなく、地元企業やNPOと協働した実践に取り組めます。また、与えられた課題ではなく、自らが企画・実施・評価していく点に特色があります。このため、通常の講義とは異なり、土日を含め、正規の時間外での打ち合わせや地域活動への参加機会があります。皆さんへの負担は小さくありませんが、その分、得られるものも大きいと信じています。自分たちのアイデアや提案が企業や団体を通して実社会で活用されるまたとない機会でもありますので、積極的に参加・議論できる学生をお待ちしています！